

住吉市民病院用地の活用について (経過説明)

大阪市
病院局・住之江区役所

1. 区民意見について

①区民意見聴取の経過（期間：1月16日～2月14日）

区民ホールでの区民のつどい	1 回	} のべ 664 人参加
保育施設・乳幼児健診事業の場を活用した意見聴取	9 回	
中学校ブロックごとの地域ラウンドテーブル 外	7 回	
ご意見箱・市民の声（1月～2月）	13 件	

②主なご意見

- 「近隣にないと困る・府立急性期は不便」
- 「病院がなくなるとまちがさびれる」
- 「新母子医療センターへの疑問・懸念」
- 「住吉市民病院は良い病院」
- 「現地に公立病院が必要」
- 「高齢者も増える中、総合病院を望む」
- 「機能・高度化のメリットで安心できる」など

③署名等

- 平成24年6月6日「要望書」区社会福祉協議会、区地域振興会から(約4万1千筆)外
- 平成25年2月6日「住吉市民病院のあり方」住之江区医師会から



病院が現地からなくなることに対して
切実な不安を訴える声が多数寄せられた

2. 市会での議論について

民生保健委員会（2月22日）：公明・石原議員

- ❖ 小児・周産期医療が地域に不足しているという課題がすでに見えているなか、区民からも多数、不安の声が上がっている
- ❖ 住之江区・西成区が小児・周産期医療の空白地帯のままとなることは納得できない

（市長）

- ❖ 跡地に小児・周産期を含む民間病院を誘致することで、住民の皆さんの不安に対する解決策としていきたい

代表質問（3月5・6日）

- ❖ 民間病院の誘致は、住吉市民病院と府立急性期の統合の前提条件である。結果的に引き受けてくれる民間病院が見つからないでは話にならない（自民・木下議員）
- ❖ 民間病院を誘致するということは、そこに医療機能が必要だと認めたことになる。民間病院が来る保証がない以上、公立病院としてしっかり残し、充実させるべき（共産・北山議員）

民生保健委員会（3月12～15日）

- ❖ 市南部地域は小児・周産期医療が不足しており、民間病院を誘致して初めて現状の改善になり、民間を誘致したからと言って（仮称）住吉母子医療センターに何らかの影響が出るとは思えない。しっかりと民間を誘致し、住吉母子医療センターとの機能等の分担についても、地域医療を守る立場からしっかりと議論・調整を進めていてもらいたい（公明・石原議員）
- ❖ そもそも小児・周産期は不採算な分野であり、民間が手を挙げてくれるところがあるのか未確定な段階で、住吉市民病院の廃止条例案を判断するのはあまりにも拙速（自民・加藤議員）

3. マーケット・サウンディングについて

◆目的

大阪市立住吉市民病院跡地において、地元で必要とされている医療を継承して、事業を行うことについての民間事業者様の意向をお伺いするため

◆事業の条件

住吉市民病院用地を利用して、

- ・小児・周産期医療部門を含む病院として活用
- ・病床数については、関係機関で調整を予定
- ・土地利用は買い取りの他、賃貸借、その他方法も可
- ・福祉施設その他まちづくりに資する施設としての一体利用可 等

◆応募受付期間

平成25年2月27日（水）午前9時 ～ 平成25年3月29日（金）午後5時30分

◆現在の応募状況等

電話・来庁等による問合せ 6 件

意向表明書の提出 3 件 （平成25年3月14日現在）

◆今後の予定

マーケット・サウンディングの結果を踏まえ、正式な公募入札に向けて具体的条件を早急に検討